

今日から、礼拝の中で、子どもたち向けのメッセージを語ります。言い換えれば、小さいお友だちからおじいさん・おばあさんまで、一緒に、神さまの声に耳を傾けるということです。

ところで、みなさんの中には、教会には来るけど、「神さまはいるのかな？、分からない」と思っておられる方もいるかと思います。それは当然だと思います。神さまは目に見えません。神さまの声を直接聞くことができません。お祈りをしても、本当に聞かれたのか確認出来ないこともあります。

でもね、聖書には神さまがいつも一緒にいて下さること、神さまが祈りを聞いて下さること、神さまが助けて下さることが記されています。イスラエルの人たちは、エジプトにいた時、奴隷として苦しんでいました。毎日毎日、朝早くから夜遅くまで働かさせました。体も休ませることができません。イスラエルの人たちは、苦しいため、「神さま、助けて下さい」と叫び続けたのですね。

この時に、神さまは、祈りを聞いて下さり、イスラエルを救い出すために、モーセさんをリーダーとしてお立て下さいました。モーセさんは、イスラエルの人たちが奴隷から解放できるように、エジプトの王であるファラオの所に行き、頼みますが王さまは受けうれてくれません。そのため、モーセは神さまの力によって奇跡を行います。ナイル川の水を血に変えたり、蛙が大量に発生します。エジプト人のみんなが腫れ物ができて苦しむこともありました。雹が降ったり、三日間暗闇になることもありました。それでも、エジプトの王ファラオは頑固になって、イスラエルの人たちを解放しません。

そのため、神さまは最後10番目の奇跡として、エジプトの人たちの初子を一人残らず殺すことにしました。この時、エジプトの王は神さまの力を知って、イスラエルの人たちを解放したのです。

このように、神さまは、イスラエルの人たちの祈りを聞いて下さり、助けて下さいました。そして今も、神さまは、ここに一緒にいて下さいます。みんなが祈る時、聞いて下さいます。助けて下さいます。力を下さいます。なぜならば、神さまは、今も生きて働いておられるからです。神さまは、神さまを信じている人たちが好きだから、愛して下さいているからです。

それだけではありません。みんなが神さまを忘れている時、学校でお友だちと学んだり、遊んだりしている時も、家にいる時も、神さまはみんなのことを見守っていて下さいます。みんなが、神さまをいるのか分からないな？ と思っても、いつも神さまは、みんなのことを愛して下さい、見守っていて下さいます。

お祈りしましょう。

神さま、私たちが神さまを忘れている時も、いつも、私たちを見守っていて下さり、ありがとうございます。私たちの祈りを聞いて下さり、ありがとうございます。

だからこそ、私たちも、神さまを信じて、神さまの恵みに感謝することができるようにしてください。このお祈り、主イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

みんなは、お父さん・お母さんに、「これをしなさい」、「こんなことをしたらダメ」と言われることがあるかと思います。「お片付けをしなさい」と言われた時に、「後からしようと思ったのに」ということもあるかと思います。「ダメ」と言われても、「これくらい良いではないか」と思うこともあるでしょう。

神さまも、みんなに、そして先生を含めてここに集っている人みんなに、10の約束を求められます。「十戒」と言います。「10の戒め」とも言います。「～してはならない」と10も言われる、「嫌だな」と思うかも知れません。

しかし、神さまがみんなに約束を守るように求めるのには理由があります。「なんで」と思うでしょう。先週も先生が語ったことです。みんなのことが嫌いだから、意地悪しているわけではありません。「神さまは、みんなのことが大好きだからです」。それは、みんなのお父さん・お母さんも同じですよ。

ではなんで、「これをしてはダメ」、「これをしなさい」と言われるのでしょうか？

みんなたちのまわりには、いろんな悪いことを考えている人たちがいます。「教会よりも楽しいことがあるよ」と誘われたり、「自分さえ楽しければいいや」と自分で思ったりすることですね。「誘惑」といいます。こうしたことを思ったりするようになると、神さまから離れ、悪いことを平気で行うようになってしまいます。

「日曜日には教会に行きなさい」と言われるのも、みんなが神さまを忘れないためです。一週間に一度は、教会にくることによって、私たちが神さまを忘れていた時でも、神さまは私たちと一緒にいて下さったのだ、守って下さっている、祈りを聞いて下さっていることが分かるのです。

だからこそ、命令されたり、怒られたりしたら、その時は「嫌だな」と思うかと思いますが、後から、「それは、神さまが私を愛して下さっている、大好きだからだ」と分かるかと思えます。

先生が、みんなに怒ったり、注意したりすることもあるかと思えます。みんなのことが嫌いであることはありません。みんなのことが大好きです。「なぜ」注意されているのか分からない時があるかと思えます。そのような時には「なぜ」と聞いて下さい。ちゃんと理由があるからですよ。

せんせいだけではありません。お父さん、お母さん、家族の人たち、そして教会に来ている人たちは、みんな同じ思いだと思います。

お祈りしましょう。

神さま、怒られたり注意されたりするのは嫌です。しかし、神さまが私たちのことが大好きで、守って下さるために、命令したり注意して下さることを学びました。神さまが聖書でお語りになるように、お父さん、お母さん、家族の人たち、また教会の人から注意されたりする時も、理解することができるようにして下さい。

このお祈り、イエスさまのお名前によりお祈りします。 アーメン。

子どもメッセージを始めて3回目になります。「神さまはいつも一緒にいてくださり、みんなのことを愛して下さっている、大好きだよ」ということ、「神さまがみんなのことを大好きだからこそ、危ないことから守るために、命令・約束を命じられている」ことを学んできました。

では、神さまは私たちに、何をしなさいと語っておられるでしょうか。神さまは、モーセさんに、その約束の命令を渡して下さったのですが、2枚の板に記されていました。つまり神さまは、みんなに大きく分けて「二つのことを守りなさい」とお語り下さいました。

それはどのようなものでしょうか。**1枚目**：『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい』とあります。「神さまを愛しましょう」ということです。神さまがみんなが大好きです。愛しています。だから、みんなも神さまを愛しましょう。信じましょう。と語られています。

みんなは、お父さん・お母さん・家族の人たちに愛されています。だから、怒られたりしたとき、「嫌だな」と思っても、家族の人たちのことを嫌いになることはありません。神さまも同じです。

そして**2枚目**：「隣人を自分のように愛しなさい」とあります。「隣人」で難しいですが、「となりの人」という意味です。隣の人とは、兄弟かな、友達かな、それとも家族かな…。しかし神さまが「隣人」と語られる時、ここにいる人たちみんな、学校にいる人たちみんな、日本人のみんな、世界中の人たちのみんなが、「隣人：となりびと」ですよと、語られています。

「愛する」とは、「自分がいやなこと」は行わないことです。「自分が好きなこと」、「嬉しいこと」を、行うということです。

神さまがお与え下さった2枚の板、つまり2つの約束を守ること、それがとっても大切ですよ、と神さまは私たちに語って下さっています。

①神さまがみんなのことが大好きだからこそ、

みんなも神さまのことを大好きになろう！

②隣人（となりびと）である周りの人たちのことを大好きになろう、

「自分の嫌なことは止めておこう」。

→このことを、神さまは、私たちに約束しましょう、と求めておられます。

お祈りしましょう。

神さま、怒られたり注意されたりするのは嫌です。しかし、神さまが私たちのことが大好きで、守って下さるために、お約束を守るようにお語り下さいました。神さまのことが好きになって、隣人を愛することが出来るようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によりお祈りします。 アーメン。

神さまは、私たちを愛して下さり、大好きだからこそ、神さまと一緒に歩むために大切な教えを守るようにお語り下さいます。この時、神さまは私たちに十戒という10の約束をお与え下さいました。先週はそれが、2枚の板、つまり「神さまを愛すること」、「隣人・周りの人たちを愛すること」の2つであることを確認して来ました。

そして今日からは、この10の約束を一つ一つ確認して行きたいと思います。今日はその一番最初です。「初め」に語ることは、一番大切なのですね。それが「神さまはひとり」であって、他に神がいるのではありませんよ、と語られます。みんなのお家のまわりには、神社やお寺がないでしょうか。大宮には大宮公園の所に氷川神社という大きな神社があります。日本には八百万の神がいると言われます。「やおよろず」とは800万という漢字が使われます。つまり800万、大勢の神がいますよと言われているのです。

いろんな神がいるのであればどうでしょうか？ あっちの神にもいかなければならない、こっちの神にも行かなければならない、となるのではないのでしょうか。あそこに神に会いに行かなければ「たたり」があったらどうしよう、こっちの神に行かなければ、「災い」がおこったらどうしよう、となるのですね。

しかし、神さまは、他には神はいないですよ、人間が造ったものであって、そこに何の力もないですよ、とお語りになります。主なる神さま、イエス・キリストのお父さまである神以外に、神はいないのです。

旧約聖書の時代、イスラエルに神さまを信じているエリヤという預言者がいました。この時、アハブという王は、主なる神さま以外の神バアルやアシェラという神を信じていました。この時、エリヤさんは、アハブ王に対して、「本当の神さまは誰か確かめよう」と語られました。バアルを信じている預言者が450人、アシェラを信じている預言者が400人集められました。バアルとアシェラの預言者たちは、一生懸命彼らの神に祈り、自分の体に傷を付けて地を流すようなことをしましたが、何も起こりませんでした。しかしエリヤが神さまに祈ると、神さまは祭壇に火を降らせ、神さまが生きておられ、祈りを聞かれるお方であることが示されたのです。

日本にいる神社や寺、八百万の神々も、人間の手で造られたのであり、何もできません。でもただ一人の主なる神さまは、私たちの祈りを聞いて下さいます。今も、私たちを見守っていて下さいます。

だからこそ、私たちは、教会にきて、聖書を通して語られる主なる神さまを信じるのですね。

お祈りしましょう。

主なる神さま、日本にはいろんな神がいると言われますが、今も生きて働き、私たちのことを守って下さる神、私たちを助けて下さる神は、主なる神さましかいないことを、学びました。

だから、私たちも、いつでも、主なる神さまを信じて、教会にも来る事が出来るようにしてください。

このお祈り、主イエスさまのお名前によりお祈りします。

神さまは、私たちを愛して下さり、大好きだからこそ、神さまと一緒に歩むために大切な教えを守るようにお語り下さいます。この時、神さまは私たちに十戒という10の約束をお与え下さいました。先週はそれが、2枚の板、つまり「神さまを愛すること」、「隣人・周りの人たちを愛すること」の2つであることを確認して来ました。

そして10の約束を一つ一つ確認しているのですが、その最初が一番大切であり、「神さまはお一人であり、他には神々はありませんよ」ということでした。そして2番目のことを今日、学びます。主なる神さま以外に神さまがいないと言っても、神さまは形をもっておられません。私たちは聖書を読むことは出来ても、声を聞くこともできません。本当に神さまがいるのかな？ と不安になることもあるかと思います。そのため、今だったら十字架のペンダントを作ったり、マリア像を作ったりします。しかし、神さまは、人間が造ったものに、神はいませんよと語られます。

イスラエルの人たちがエジプトから救い出された時、リーダーであるモーセさんは、長い間、シナイ山に登ったまま帰って来ませんでした。そのため、イスラエルの人たちは不安になりました。「自分たちの神さまを作ろう」という人たちが出て来て、金の子牛を作り、これを神として拝んでいたのです。しかし、そのことを知った神さまは、それが偶像崇拝である、やってはいけないことを行ったのだと怒られ、その人たちは神の裁きにあったのです。

神さまは、形をもちません。しかし聖書から語って下さいます。私たちの祈りを聞き届けて下さいます。いつでも一緒にいて下さり、みんなのことを見守っていて下さいます。だからこそ、神さまは、「作られた形あるものを神として拝んではいけませんよ」と私たちに語りになります。

お祈りしましょう。

主なる神さま、私たちは神さまの声を直接聞くこともなく、形もなければ、不安になります。しかし、神さまは自分で作ったものに神が宿ることはなく、いつでもみんなと一緒にいることを約束して下さい。聖書を読むことにより、祈ることにより、神さまがいつも一緒におられることを受け入れることができるようにして下さい。

このお祈り、主イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

神さまは、私たちが愛して下さり、大好きだからこそ、神さまと一緒に歩むために大切な教えを守るようにお語り下さいます。この時、神さまは私たちに十戒という10の約束をお与え下さいました。先週はそれが、2枚の板、つまり「神さまを愛すること」、「隣人・周りの人たちを愛すること」の2つであることを確認して来ました。

最初に「神さまを愛すること」において、最初は一番大切な戒め、「主なる神さま、イエスさま以外に神はいませんよ」とお語りになりました。そして二番目「神さまは像を持たないので、偶像（仏像等）を拜んではいけませんよ」と語られていました。そして今日は3つめです。「神に悪口を言ってはならない」のです。「そんなことしないよ」と思っているかもしれません。

でも、「今日は教会に行きたくない」と言ったりすることはありませんか？ 神さまは、みんなが教会に来ることを喜んで下さいます。お休みする時、神さまはさびしく悲しまれます。「でも、神さまに悪口を言っているわけじゃないよ」と思うかも知れません。でも、「教会に行きたくない」と思う時、「神さまにお会いしなくてもよい」とおもっているのですよね。これは直接、神さまに悪口を言っているのではありませんが、「神さまとお会いするのが嫌だ」、「神を否定」することと同じなのです。それは、神さまに悪口を言っているのと同じことです。

エジプトで奴隷であったイスラエルの人たちは、モーセによって助け出され、約束の地に向かっていきます。でも、荒れ野・砂漠を歩いているため、飲む水がなくて、みんな苦しみます。そんな時、イスラエルの人たちはモーセに対して、そして神さまに対して語ります。「我々に飲み水を与えよ」、「なぜ、我々をエジプトから導き上ったのか。わたしも子供たちも、家畜まで渴き殺すためなのか」と。神さまを否定するようなことを語りました。しかし神さまは、このような言葉で語っても、イスラエルの人たちの思いを受け入れ、水をお与え下さいました。

神さまに怒るのではなく、お祈りすればよいのです。神さまはお祈りすれば、ちゃんと聞いて下さいます。

お祈りしましょう。

神さま、私たちは、神さまのことを嫌だと思ったり、神さまがお与え下さったことに対しても、「なぜですか」と怒ったりします。でも、神さまは私たちが愛して下さり、一番良いことをお与え下さる方です。神さまを信じて、教会に来て神さまにお会いすることを喜ぶことができるようにして下さい。

このお祈り、主イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

神さまは、私たちを愛して下さい、大好きだからこそ、神さまと一緒に歩むために大切な教えを守るようにお語り下さいます。この時、神さまは私たちに十戒という10の約束をお与え下さいました。先週はそれが、2枚の板、つまり「神さまを愛すること」、「隣人・周りの人たちを愛すること」の2つであることを確認して来ました。

「神さまを愛する」ために、他には神さまはいないよ。神社などにある銅像などに神さまはおられないから、拜んではいけませんよ。神さまに対して悪口を言ってはダメですよ。と語ってきました。そして4つのめの約束は、日曜日には教会に来て礼拝しましょう、ということでした。

なんで、毎週、毎週、教会に来なければならないと思います？ 友だちと遊びたいな、ゲームしたいな、と思うかも知れませんが、でも、先生もそうですし、教会に来ている人、みんな同じなのですが、教会を休むと、神さまを忘れてしまうのです。悪魔が誘惑した時に、断れなくなるのです。だから毎週教会に来て、神さまの話を聞くことによって、神さまと一緒にいて下さるよ、助けて下さるよ、ということ、毎週確認するのです。だから、みんな教会に来るのです。

みんなも教会を休むことがあるかと思いますが。そんな時、どう思いますか？ 「ラッキー」と思うこともあるかと思いますが。しかし、神さまは寂しいなと思われています。だからこそ、教会に来ることが出来ない時もあるかもしれませんが、神さまも寂しがっておられる、ごめんなさい、と思うことこそが大切ですね。そのような時には、神さまにお祈りすればよいのです。

来週は、クリスマスです。今まで練習してきたトーンチャイムを多くの人たちの前で発表する時でもあります。みんなで礼拝に来て、一緒にお祝いしたいと思います。

お祈りします。

神さま、私たちはすぐに神さまのことを忘れてしまいます。しかし、神さまはいつでも私たちのことを覚えていて下さり、私たちが教会を休めば寂しく、悲しんでおられることを知りました。だからこそ、できる限り、教会に来て、お友だちと共に、神さまと一緒にいることを喜ぶことが出来るようにして下さい。

このお祈り、主イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

神さまは、私たちが愛して下さり、大好きだからこそ、神さまと一緒に歩むために大切な教えを守るようにお語り下さいます。この時、神さまは私たちに十戒という10の約束をお与え下さいました。先週はそれが、2枚の板、つまり「神さまを愛すること」、「隣人・周りの人たちを愛すること」の2つであることを確認して来ました。

今日から2枚目の板である「隣人・周りの人たちを愛すること」について考えていこうと思います。「りんじん」って、ふつうには使わないかと思います。しかし、「となりの人」と言えば、良く分かるかと思います。

みんなのとなりの人とは誰ですか？ 兄弟がいたり、お友だちがいたりします。家族であり、お父さん、お母さんがいます。でも、神さまが「あなたの隣人を愛しなさい」とお語りになる時、家族やお友だちだけを愛していれば良いとは、語りません。

善きサマリア人のことが聖書に記されています（ルカ10:25～37）。一人の人が旅に出ていました。当時はみんな歩いて旅をしています。食料やお金も持っていかなければなりません。大変です。だからこそ、途中で、泥棒が来ます。お金を取り、服を取り、時には殴りつけて、殺されたりします。この旅人も、泥棒に遭い、死にそうになりました。それを見ていたユダヤ人である祭司も、レビ人も、見えないようにして遠回りをして旅を続けました。しかし、一人のサマリア人は、その人を見つけると、傷を治し、ろばに乗せて宿屋にまでつれて行き、そして休むことが出来るようにして下さいました。そればかりか、宿屋ではお金がかかるので、そのお金も払って行きました。

イエスさまは、この話しをした時に、「この旅をしていた人の隣人は誰ですか」と尋ねます。この旅人を愛していたのは、サマリア人でした。ユダヤ人たちは、サマリア人を嫌っていました。罪人だと言っていました。しかし、イエスさまは、このサマリア人こそが、あなたの隣人ですよ。この人を愛している人ですよと、お語りになりました。

愛するとは、ただ好きになることではありません。困っていたら助け、悲しんでいれば、一緒に悲しむ、それが愛することです。誰であっても、愛しなさいよ、とイエスさまは私たちに語りかけて下さっています。

お祈りします。

イエスさま、私たちはどうしても、嫌いな人がいたり、一緒にいたくない人がいます。しかし神さまは、「みんなを愛しなさい」と語られています。どうか、私たちの心を聖め、誰でも愛することができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前により、お祈りします。 アーメン

神さまは、私たちを愛して下さり、大好きだからこそ、神さまと一緒に歩むために大切な教えを守るようにお語り下さいます。この時、神さまは私たちに十戒という10の約束をお与え下さいました。先週はそれが、2枚の板、つまり「神さまを愛すること」、「隣人・周りの人たちを愛すること」の2つであることを確認して来ました。

先週は「隣人^{りんじん}を愛しなさい」と語りました。隣人とは、家族やお友だちだけではなく、誰でも同じように愛しなさい、ということでした。今日はその2番目です。神さまは「殺してはならない」と語られました。「人を殺すことは絶対しません」と言うかと思います。先生も、そのようなことは恐ろしくてしたことはありません。「人に怪我をさせてもいけません」とも語られることでしょう。

しかし、みなさんは、兄弟やお友だちをたたいたりしたことはありませんか？ 「嫌いだ」と言ったことはありませんか？ 心の中で「嫌いだ」と思ったことはありませんか？

神さまからすれば、どれも、みんな同じです。その人を否定することは、「殺した」のと同じです。実際に殺した場合はもちろん、たたいたり怪我をさせることも、言葉でいじめることも、心の中で思うのも、神さまからすれば同じです。

そして、神さまの前では、私たちは何も隠すことが出来ません。神さまは、私たちのすべてをご存じです。隠すことができません。

神さまが天地万物を造られた時、最初の人としてアダムとエバが創られました。この時、アダムとエバは神さまが「食べてはならない」とお語りになった善悪の知識の実を食べ、罪を犯しました。その後、神さまが来られた時、アダムとエバは隠れました。自分が悪いことをしたことを理解していたからです。神さまには隠すことが出来ません。

だからこそ、私たちは、神さまに愛されているからこそ、神さまがお語りになることに聞かなければなりません。神さまは、「隣人を愛しましょう」とお語りになります。「愛する」とは、「好き」だけではありません。困っていたら助け、悲しんでいれば、一緒に悲しむ、それが愛することです。そのことを先週もお語りしました。そしてもう一つ付け加えるならば、「自分の嫌なことは、人にしてはダメ！」ということなのです。

みんなも「嫌いだ」と言われるの嫌ですよ。たたかれるの嫌ですよ。自分がいやなことは、人にしてはなりません。その人が嫌だからです。神さまも悲しまれます。

お祈りします。

神さまは、私たちは、時にはけんかしたり、悪口を言ったりしてしまいます。ごめんなさい。家族やお友だちだけではなく、だれでも、自分の嫌なことを行わず、愛することが出来るようにしてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン

神さまは、私たちが愛して下さり、大好きだからこそ、神さまと一緒に歩むために大切な教えを守るようにお語り下さいます。この時、神さまは私たちに十戒という10の約束をお与え下さいました。先週はそれが、2枚の板、つまり「神さまを愛すること」、「隣人・周りの人たちを愛すること」の2つであることを確認して来ました。

そして「隣人を愛する」という時、まわりの人たち誰とでも仲良くすることでもあります。この時に大切なことは、「自分とは違うな」と思う人を悪く言ったり、いじめたりしないことです。違うからこそ、互いに助け合うことが求められています。

神さまが、男の人と女の人をつくられたのも助け合うためです。神さまが、最初の人、アダムさんを作られた時、まだ他に人はいませんでした。女の人もいませんでした。この時に神さまは、「人が独りでいるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう」とお語りになり、動物や鳥などを連れてこられました。アダムにとっては自分に合う助ける者を見つけることができませんでした。

主なる神はそこで、人を深い眠りに落とされた。人が眠り込むと、あばら骨の一部を抜き取り、その跡を肉でふさがれた。そして、人から抜き取ったあばら骨で女を造り上げられた。そして二人は一体となった、夫婦となったと語られます。

男の人と女の方は違います。どうしても男の人の方が力があります。支配したり、いじめたりします。しかし、神さまはそのようなことは喜ばれません。男の子が女の子を好きになること、女の子が男の子を好きになることは、素晴らしいことですね。互いに助け合っていかなければなりません。

この時、「好きになる、愛する」とは、相手が嫌なことを行ってはいけません。「愛する」とは、相手のことを大切に思うことですね。

そして、男の子は女の子のこと、女の子は男の子のことが分からないこともあると思います。違うことを受け入れることも大切ですね。

お祈りしましょう。

神さまは、男の人であるアダムさんの助ける人として、女の人エバさんをお与え下さいました。互いに助け合い、愛し合うためです。男の人と女の人には違いがあり、分からないこともあります。しかし、互いに助け合い、また相手を大切にすることが出来ますように、してください。

このお祈り、イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン

神さまは、私たちを愛して下さり、大好きだからこそ、神さまと一緒に歩むために大切な教えを守るようにお語り下さいます。この時、神さまは私たちに十戒という10の約束をお与え下さいました。先週はそれが、2枚の板、つまり「神さまを愛すること」、「隣人・周りの人たちを愛すること」の2つであることを確認して来ました。

そして「隣人を愛する」という時、まわりの人たち誰とでも仲良くすることでもあります。この時に大切なことは、「自分とは違うな」と思う人を悪く言ったり、いじめたりしないことです。違うからこそ、互いに助け合うことが求められています。この時に、いろんなものを持っている人がうらやましくなることがあるかと思います。ゲームや携帯…。「ぼくも欲しいな」、「わたしも欲しいな」と思うかと思います。

しかし神さまは「盗んではならない」と語られています。「自分は、人のものを盗んだりはしないよ」と言われるかと思います。実際に行ったか、心の中で思うのと違うようですが、神さまの目には、人のものを盗むのも、人のものを欲しがるのも、同じです。

イエスさまは、マタイによる福音書7章において、このようにお語りになります。「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。あなたがたのだれが、パンを欲しがる自分の子供に、石を与えるだろうか。魚を欲しがるのに、蛇を与えるだろうか。まして、あなたがたの天の父は、求める者に良い物をくださるにちがいない」。

「欲しいな」と思った時、本当に必要なものだったら、神さまがちゃんと備えてくださいます。

それと同時に、持っていないことに対して、考えるのではなく、今、何を持っているのか、考えて頂きたいと思います。これもある、あれもある。まわりの人たち、世界の人たちを見ると、本当に苦しんでいる人たちがいます。今日の食べ物すらなくて、苦しんでいる人たちがいます。そのことを考えるならば、今日も、たくさん食べられることに、感謝して頂きたいと思います。本当に必要ならば、神さまがお与え下さいます。

そして、先程のイエスさまの言葉には続きがあります。

「だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。」

本当に苦しんでいる人たちと分け合うことです。だからこそ、イエスさまは、金持ちの青年が「救われるために何をすべきですか」と語られた時、「持ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる」とお語りになりました(マタイ19:21)。

周りの人たちを見てばかりいると、うらやましくなりますが、神さまは本当に必要なものをお与え下さっていることに感謝して頂きたいと思います。

お祈りします。

神さまは、私たちを愛して下さり、大好きだからこそ、神さまと一緒に歩むために大切な教えを守るようにお語り下さいます。この時、神さまは私たちに十戒という10の約束をお与え下さいました。それが、2枚の板、つまり「神さまを愛すること」、「隣人・周りの人たちを愛すること」の2つであることを確認して来ています。

先週は、「盗んではならない」ということを考えて来ました。そして今日は「うそをついてはならない」です。なぜ嘘をついてはならないのでしょうか？ 「嘘をついてもバレなければ良いじゃないか」と思ってしまいます。

でも、神さまはどういうお方か知っていますか？ 神さまは、私たちのすべてを知っておられます。何を行ったのか、何を語ったのか、何を考えているのか、そのすべてです。嘘をついても、すぐにバレてしまいます。

イエスさまが天に昇られた後、ペトロさんの教会に、アナニアとサフィラという夫婦がいました。アナニアさんは、自分の土地を売って、教会に献金をしました。立派な人のように思えます。しかしアナニアさんは、売った代金を誤魔化して、嘘を言いました。正直に語っていれば良かったのですが、自分の手元に多くのお金を持っておきたかったからです。いかに自分が教会のために多くを献げているのかを威張りたかったのかもかもしれません。しかし、神さまはその嘘をご存じであり、アナニアはその場で倒れ、死んでしまいました。

その後すぐに奥さんのサフィラさんも来ました。アナニアさんと同じように、土地を売った代金を誤魔化して、嘘を言いました。すると、サフィラさんも、すぐに倒れて死んでしまいました。

神さまに嘘を語っても、神さまをだますことはできません。

また、何か悪いことをしてしまっ、お母さんに見つかった時、「おにいちゃんが」、「おねえちゃんが」、「おともだちが」と人のせいにすることはありませんか。他人のせいにすることは、自分の悪かったことを、その人の責任にすることですね。神さまは、そのようなことを、一番嫌われます。

悪いことをした時には、「ごめんなさい」と自分で言えた時、神さまは赦して下さい、また嘘を付かなかったこと、素直なことを喜んで下さいます。

お祈りしましょう。

神さま、私たちは、うそを付いたり、人のせいにしたりしてしまいます。でもそれは悪いことであり、神さまが悲しんでおられることを知りました。神さま、私たちが、嘘をつかず、素直でいることが出来るようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン

神さまは、私たちを愛して下さり、大好きだからこそ、神さまと一緒に歩むために大切な教えを守るようにお語り下さいます。この時、神さまは私たちに十戒という10の約束をお与え下さいました。先週はそれが、2枚の板、つまり「神さまを愛すること」、「隣人・周りの人たちを愛すること」の2つであることを確認して来ました。

そして、今まで、⑤父母を愛しなさい（みんなを愛しましょう）。

⑥殺してはならない（けんかしたり、たたいたりしない）。

⑦異性を大切にしましょう。

⑧盗んではならない。

⑨嘘をついてはならない。

このことを学んできました。そして最後の10番目、人のものを欲しがってはならない、ことです。盗んではならない、を学んだ時にも語りましたが、「思うだけならいいでしょう」と思います。しかし、神さまは、私たちの心の中もすべて知っておられます。

イエスさまは語られます。ルカ12:15～21「**どんな貪欲（人のものを欲しがる心）にも注意を払い、用心しなさい。有り余るほど物を持っていても、人の命は財産によってどうすることもできないからである。**」それから、イエスはたとえを話された。「ある金持ちの畑が豊作だった。金持ちは、『どうしよう。作物をしまっておく場所がない』と思い巡らしたが、やがて言った。『こうしよう。倉を壊して、もっと大きいのを建て、そこに穀物や財産をみなしまい、こう自分に言ってやるのだ。「さあ、これから先何年も生きて行くだけの蓄えができたぞ。ひと休みして、食べたり飲んだりして楽しむ」と。』しかし神は、『**愚かな者よ、今夜、お前の命は取り上げられる。お前が用意した物は、いったいだれのものになるのか**』と言われた。自分のために富を積んでも、神の前に豊かにならない者はこのとおりだ。」

どうしてもお友だちの持っているものが欲しくなることがあるかと思えます。先生もあります。でも、神さまは、みんなが欲しいものを知っておられます。そして、本当に必要ならば、お与え下さいます。お父さん、お母さんが理解してくれます。神さまが聞いて下さいます。イエスさまは、マタイによる福音書7章において、このようにお語りになります。「**求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。あなたがたのだれが、パンを欲しがる自分の子供に、石を与えるだろうか。魚を欲しがるのに、蛇を与えるだろうか。まして、あなたがたの天の父は、求める者に良い物をくださるにちがいない**」。「欲しいな」と思った時、本当に必要なものだったら、神さまがちゃんと備えてくださいます。

お祈りしましょう。

神さま、私たちはどうしても人のものが欲しくなったりします。でも神さまが、必要なものはお与え下さる方であることを知りました。神さまに祈ることができるようにしてください。神さま、私たちの祈りを聞いて下さい。また、神さまがお与え下さるものに満足して、感謝して生きることができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン

神さまがみんなのことが大好きだから、10の約束をお与え下さいました。十戒です。

- ①主なる神さまだけを信じなさい。
- ②刻んだ像を拜んではなりません。
- ③神さまを嫌ってはならない。
- ④神さまを忘れないために礼拝に集いましょう。
- ⑤父母を愛し、みんなを愛しましょう。
- ⑥殺したり、傷つけてはなりません。
- ⑦男の子、女の子、を大切に思いましょう。
- ⑧人のものを盗んではダメで、与えられているものに感謝しましょう。
- ⑨嘘をついてはいけません。
- ⑩心の中で悪いことを考えてはなりません。

こうしたことを学んできました。

今日は、そのおさらいです。神さまは目に見えません。みんなにとってどこにいるのかわかりません。しかし、神さまは、いつでもみんなと一緒にいて下さいます。見守っていて下さいます。助けて下さいます。力づけて下さいます。だからこそ、祈るのですよね。声に出して祈ることもあれば、声に出さない祈りもあります。それでも聞かれるのは、神さまが、いつもみんなと一緒にいて下さるからです。

神さまは、みんなのことは、何でも知っておられます。何も隠すことができません。悪いことをしたり、言葉で友だちや兄弟をいじめたりしても、神さまはみんな知っておられます。隠すことはできません。10の約束のどれ一つをやぶっても、罪であると語られます。罪を犯さないだけならば、努力すれば良いかも知れません。しかし神さまは、言葉、心の中までご存じです。隠せません。先生も罪人です。「神さまにご免なさい」としか言えません。

神さまを信じるとは、このように罪があり、神さまの民としてふさわしくないけれども、それでも神さまが受け入れてくださる、罪を赦し、救ってくださることです。

神さまがお与え下さる救いを受け入れて頂きたいと思います。神さまは、恵みの中、救いの喜びに満たして下さいます。

(お祈りしましょう)

神さま、私たちは、行いにおいて、言葉において、心の中で、悪いことをして、神さまを悲しませています。それでも神さまは、私たち一人ひとりを受け入れてくださり、救いに入れてくださることに感謝します。

救いに感謝し、喜んで神さまを信じることができるようして下さい。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン